

■e-黒板ニュース（第31号）：e-黒板&e-教科書を使った国語の授業

光村図書出版の国語のデジタル教科書を活用した授業は、すでに何校かで実践されていますが、今日は、神奈川県横浜市立大口台小学校での実践です。ご担当は、佐藤幸江先生。e-教科書研究会の委員にもなっています。電子情報ボードは、一体型（プラズマタイプ）です。佐藤先生の授業の様子と、授業後の反省会の様子等をレポートします。

12月4日には、岐阜県大垣市のソフトピアジャパン・センタービルで「先進IT活用教育シンポジウム in 岐阜」がCEC主催、岐阜県・岐阜県教育委員会共催、文部科学省等の後援で実施されますが、このシンポジウムでは、e-黒板研究会の会長でもある清水康敬先生が基調講演をされます。海外での電子情報ボードの普及の様子やその背景などもお話ししていただけたと思います。

また、併設の「e-黒板&e-教科書展示コーナー」では、上記の大口台小学校での授業をはじめ、既に実施されているe-黒板&e-教科書の実践授業の様子をビデオで紹介したり、開発中のe-教科書やツールソフト等をご紹介します。いわば、今年度の活動の中間報告的な場となります。e-黒板研究会会員必見です。

今すぐ、参加申込みを！

今号の目次：

=====

1. 報告：e-黒板&e-教科書を使った国語の授業（神奈川県横浜市立大口台小学校）

2. お知らせ：「シンポジウムin岐阜」はe-黒板研究会&e-教科書研究会の中間報告

=====

お友達への再配信またはご紹介は、ご自由にどうぞ。会員の皆様からの投稿もお待ちしております。

宛先はいつでも ekokuban@cec.or.jp です。

e-黒板研究会のホームページ

<http://www.cec.or.jp/e2a/ekokuban>

をご参照ください。e-黒板ニュースのバックナンバー等もご覧いただけます。

1. 報告：e-黒板&e-教科書を使った国語の授業（神奈川県横浜市立大口台小学校）

東京の渋谷駅から、東急東横線で約20分、妙蓮寺駅から徒歩で約7分。曲がりくねった道を上ったり、少し下ったり。近くに横浜市立盲学校があるので、目の不自由な人のためのタイルが貼ってある道をずっと歩いていく。

○いつもと違う雰囲気

佐藤幸江先生は、有名なD-projectや学校企画などCECのいろいろな活動にも参加されている。大口台小学校の4階に、佐藤学級はある。6年2組の総勢は29名。

今日の授業には、金沢大学の大学院生やe-黒板研究会の関係者等で、総勢23名という、たくさんの方が見学者となった。子どもたちは、大勢の見学者に、前半はやはり緊張していたようだ。表情も硬く、発言も少なかった。

○まず、感想を聞く

単元名は、「言葉って、おもしろいな」 光村図書出版の新しい（次の）教科書を使う。配られた指導案には、目標として、「自分たちの言葉や言語生活を見つめ直し、話したり書いたりする活動を通じて、言葉のおもしろさや不思議さを感じ、その背景には人と人との関わり方に対する考え方や文化があることに気づき、言葉を大切にしようとする。」とあった。

まず先生は、前時の感想を聞くが、発言が少ない。

○教科書を電子情報ボードに表示する

教科書の52ページを電子情報ボードに表示する。まさに、これが「デジタル教科書」だ。子どもたちは、まだ緊張している。佐藤先生は、その緊張を和らげるための笑顔を絶やさない。

ブルーのペンで、強調する言葉をマークする先生。授業も半ばになって、子どもたちの緊張が少し和らいできた。そして、先生の機転で、子どもたちを5つのグループに分けて、グループで調べることにした。すると、途端に子どもたちの緊張が解けて発言も多くなり、やっといつもの調子がでてきたようだ。

5つのグループに分かれて、課題である「おもしろい表現」について調べるようになった。「雲行きがあやしい」という例が載っていた。同じ表現でも、場面によって意味が違い、人によって感じ方が違う。「判断のずれのおもしろさ」をしらべようというのだ。それぞれの机の上には分厚い辞典がドーンと置かれていた。900ページはあると思われる学研の「小学国語辞典」だ。なるほど、電子辞書で調べるより、この方が大切だと私は思った。

○「卵」の筆順をアゴでなぞる

1つのグループは、電子情報ボードの前に陣取って、デジタル教科書で筆順の練習

をしていた。デジタル教科書がイラストとアニメーションで、文字の筆順を示してくれるのだが、おもしろいことにある子どもは、筆順に合わせてアゴも一緒に動いていた。まさに「体で覚える筆順」ということになる。

○反省会で大激論

授業が終わって、別室で、見学者全員23名がそろって、それぞれ意見や感想を述べ合った。今日使ったデジタル教科書への要求。電子情報ボードへの要求。そして、佐藤先生への活用方法に対しての意見など、議論に花が咲いた。司会役はいつのまにか金沢大学の中川一史先生になっていた。もちろん、適任である。

参加者も多彩である。経済産業省の人、大学の助教授、大勢の教員、学生、雑誌の編集者・記者、カメラ技術者、教科書会社の人、電子情報ボードメーカーの人、e-教科書の標準化を推進している人などである。

ここでの議論の内容こそ、e-黒板ニュースに最適のネタであるが、残念ながら上手く報告としてまとめることができなかった。別途、インタビューができればいいのにと考えている。

授業の途中、校長先生が教室の横の廊下で、こんなことを私に教えてくれました。「このクラスは、5年生のときは大変だったんですよ。」「半年で、よくここまでできた。」「指導によって（子どもたちは）変わるんだということがわかった。」「子どもたちの心が変わった」「みんなでいっしょにがんばれるようになった」と、本当にしみにした口調で話されました。

佐藤先生の指導で、立派なクラスになったことを教えてくれたのです。そして、佐藤学級の黒板には、こんな言葉が書かれていました。「一人ひとり弱い。支え合うことで強くなれる！」

校長先生のおしゃったように、いい先生の指導で、子どもたちは（いいように）変わったのです。中川先生が大口台小学校に指導に来られた「総合的な学習の時間」の実践の効果も大いにあったということでした。

佐藤先生がe-黒板とe-教科書を使った授業をしたのは、今日で2回目です。だからe-黒板とe-教科書で、子どもたちが変わったというわけではありません。

IT（e-黒板やe-教科書）を使わなくても、素晴らしい授業をされる先生は、いっぱいいらっしゃる。う～ん。やっぱりいい授業にITは必要ないのでしょうか？

私は、いい先生がITを活用すれば、「さらに・もっと、いい授業ができる」と信じたいのですが、みなさんは、どう思われますか？

2. お知らせ：「シンポジウムin岐阜」はe-黒板研究会&e-教科書研究会の中間報告

「先進IT活用教育シンポジウムin岐阜」は平成16年12月4日（土）10:00～17:00にソフトピアジャパン・センタービル（大垣市）にて開催されます。

○開催日時：平成16年12月4日（土） 10:00～17:00

○開催場所：ソフトピアジャパン・センタービル（岐阜県大垣市）

<http://www.cec.or.jp/e2a/e2a/parking.html>

○概要：

<http://www.cec.or.jp/e2a/e2a/gifu.html>

○基調講演 10:20-11:00

テーマ：有効なIT活用の方法と評価について

講師：独立行政法人メディア教育開発センター

理事長 清水 康敬 氏

○併設 e-黒板&e-教科書展示コーナー（9ブース+プレゼンテーションコーナー）

○申込み締切：平成16年11月30日（火）

参加費：無料

○参加申込：

http://www.cec.or.jp/e2a/mform/epro_gifu.html

以上

=====
編集・発行：財団法人コンピュータ教育開発センター 関 幸一
e-黒板ニュース メールアドレス： ekokuban@cec.or.jp
e-黒板研究会 ホームページ： <http://www.cec.or.jp/e2a/ekokuban/>
=====